

平成 1 7 年度
島根県産業廃棄物実態調査報告書〈概要版〉
(平成 1 6 年度実績)

平成 1 7 年 1 2 月

島根県環境生活部廃棄物対策課

目 次

1. 調査目的	1
2. 調査対象期間	1
3. 調査方法	1
4. 調査対象業種	1
5. 調査対象廃棄物	1
6. 調査結果	1
(1) 発生状況	2
(2) 排出状況	3
(3) 処理・処分状況（農業を除く）	4
(4) 前回調査との比較	6
産業廃棄物実態調査結果（要約）	7

1. 調査目的

島根県内における産業廃棄物の発生及び処理・処分状況等の実態を把握し、廃棄物処理計画策定のための基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査対象期間

平成 16 年 4 月 1 日から平成 17 年 3 月 31 日までの 1 年間

3. 調査方法

郵送によるアンケート調査（ただし、農業については資料調査）

調査件数 4,562 件

回収件数 2,492 件（回収率：54.6%）

4. 調査対象業種

日本標準産業分類に基づく、大分類 15 業種（略称で表示）を対象

①農業 ②林業 ③鉱業 ④建設業 ⑤製造業 ⑥電気・水道業 ⑦通信業 ⑧運輸業
⑨卸・小売業 ⑩飲食店 ⑪金融・保険業 ⑫不動産業 ⑬医療・福祉業 ⑭サービス業 ⑮公務

5. 調査対象廃棄物

廃棄物処理法及び同法施行令で定める産業廃棄物（20 種類）及び特別管理産業廃棄物（6 種類）

また、法令上廃棄物とならないもの、いわゆる有償物（事業場内等で生じたもので、中間処理されることなく、他者に有償で売却したもの及び他者に有償で売却できるものを自己利用したもの）も調査対象とした。

産業廃棄物

①燃え殻 ②汚泥 ③廃油 ④廃酸 ⑤廃アルカリ ⑥廃プラスチック類 ⑦紙くず ⑧木くず
⑨繊維くず ⑩動植物性残さ ⑪動物系固形不要物 ⑫ゴムくず ⑬金属くず ⑭ガラス・コンクリート・陶磁器くず ⑮鉱さい ⑯がれき類 ⑰ばいじん ⑱動物のふん尿 ⑲動物の死体
⑳以上の廃棄物を処分するために処理したもの

特別管理産業廃棄物

①廃油 ②廃酸 ③廃アルカリ ④感染性産業廃棄物 ⑤廃石綿等 ⑥特定有害産業廃棄物

6. 調査結果

平成 16 年度に島根県内で発生した産業廃棄物の処理・処分状況は、以下のとおりである。

（単位：千トン／年）

発 生 量	全産業	
	全産業	農業を除く
	2,291	1,624
有償物量	36	36
排出量	2,255	1,588

数値については、四捨五入の関係で総数と個々の数値の合計が一致しない場合がある。

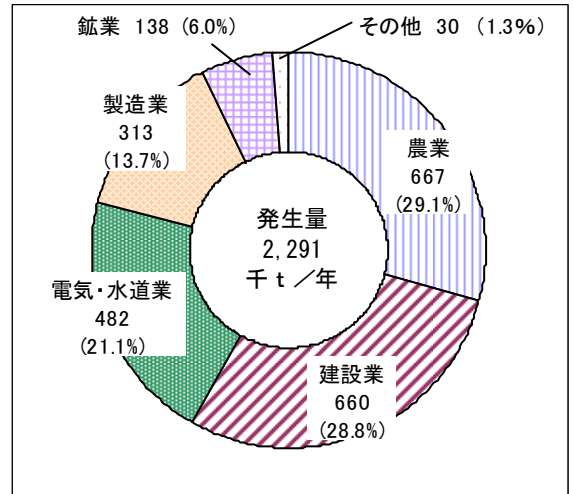
(1) 発生状況

産業廃棄物の発生量は2,291千トンとなっており、業種別、種類別、圏域別の発生状況については、次のとおりである。

①業種別発生量

● 上位4業種で発生量の92.7%

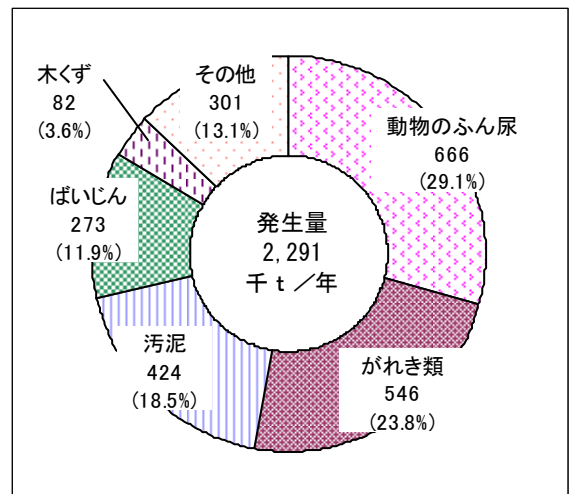
農業が667千トン(29.1%)で最も多く、次いで建設業が660千トン(28.8%)、電気・水道業が482千トン(21.1%)、製造業が313千トン(13.7%)となっており、これら4業種で発生量の92.7%を占めている。



②種類別発生量

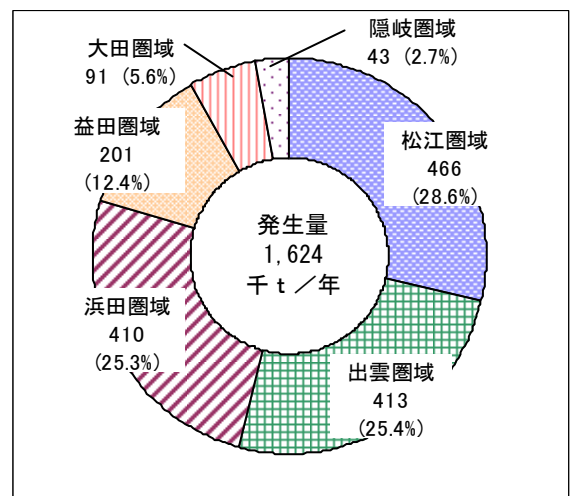
● 上位4種類で発生量の83.3%

動物のふん尿が666千トン(29.1%)で最も多く、次いでがれき類が546千トン(23.8%)、汚泥が424千トン(18.5%)、ばいじんが273千トン(11.9%)となっており、これら4業種で発生量の83.3%を占めている。



③圏域別発生量 (農業を除く)

発生量(1,624千トン)を圏域別にみると、松江圏域が466千トン(28.6%)で最も多く、次いで、出雲圏域が413千トン(25.4%)、浜田圏域が410千トン(25.3%)、益田圏域が201千トン(12.4%)、大田圏域が91千トン(5.6%)、隠岐圏域が43千トン(2.7%)の順になっている。



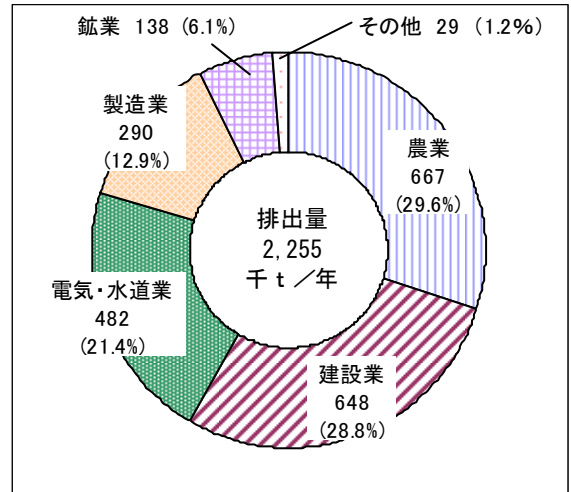
(2) 排出状況

産業廃棄物の排出量は2,255千トンとなっており、業種別、種類別、圏域別の排出状況については、次のとおりである。

①業種別排出量

● 上位4業種で排出量の92.7%

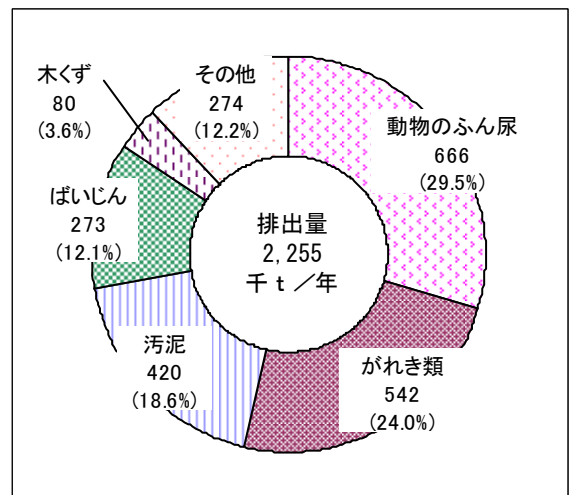
農業が667千トン(29.6%)で最も多く、次いで建設業が648千トン(28.8%)、電気・水道業が482千トン(21.4%)、製造業が290千トン(12.9%)となっており、これら4業種で排出量の92.7%を占めている。



②種類別排出量

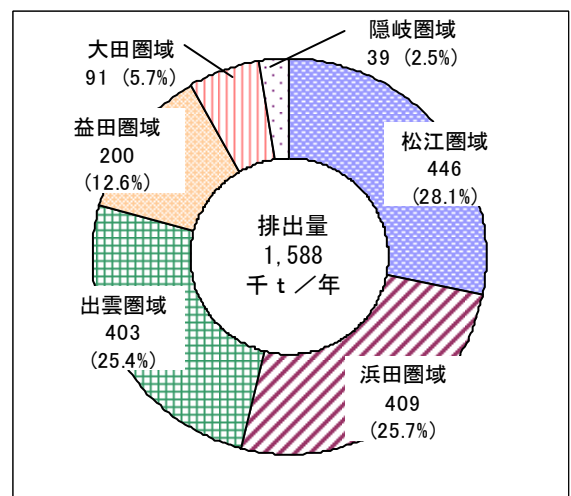
● 上位4種類で排出量の84.2%

動物のふん尿が666千トン(29.5%)で最も多く、次いでがれき類が542千トン(24.0%)、汚泥が420千トン(18.6%)、ばいじんが273千トン(12.1%)となっており、これら4種類で排出量の84.2%を占めている。



③圏域別排出量 (農業を除く)

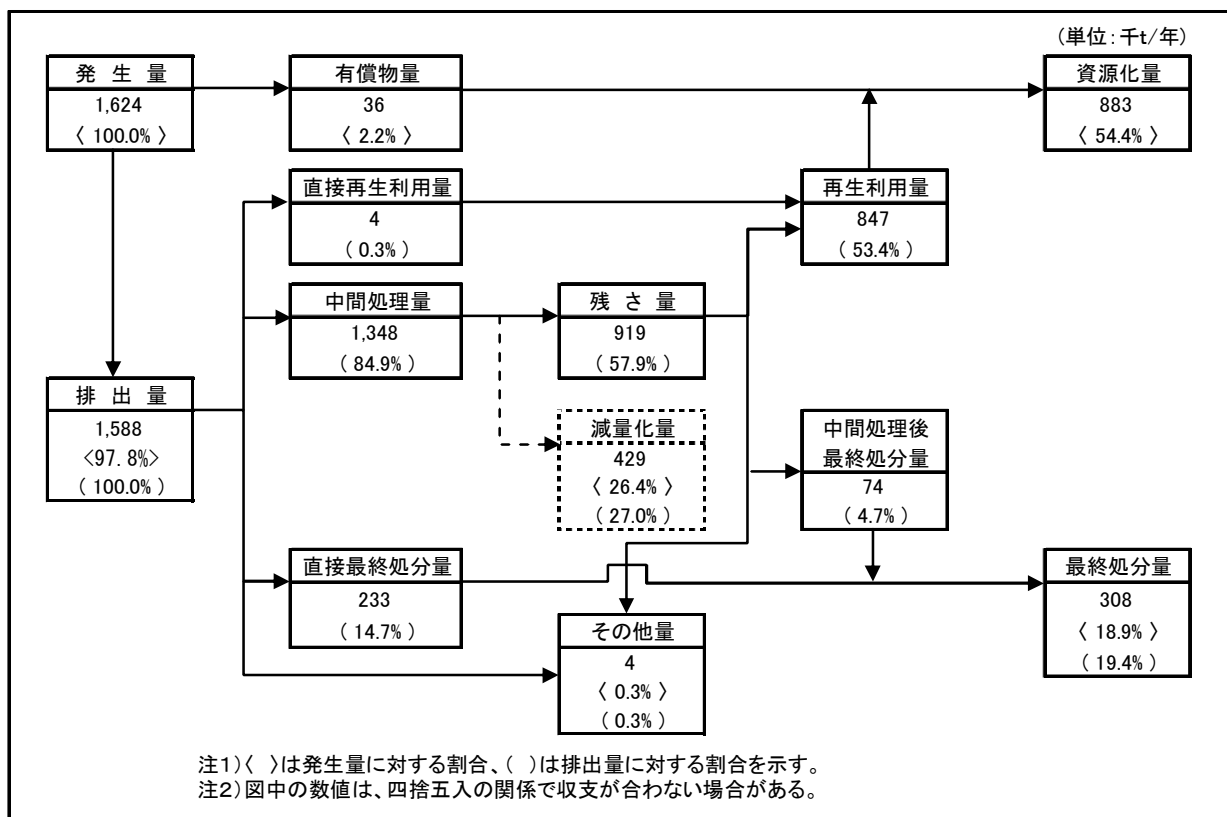
排出量(1,588千トン)を圏域別にみると、松江圏域が446千トン(28.1%)で最も多く、次いで、浜田圏域が409千トン(25.7%)、出雲圏域が403千トン(25.4%)、益田圏域が200千トン(12.6%)、大田圏域が91千トン(5.7%)、隠岐圏域が39千トン(2.5%)の順となっている。



(3) 処理・処分状況（農業を除く）

排出量 1,588 千トンの処理・処分状況を見ると、脱水・焼却等の中間処理によって 429 千トン（27.0%）が減量化され、再生利用量 847 千トン（53.4%）が資源化されており、結果的に 308 千トン（19.4%）が最終処分されている。

・再生利用量	847千トン	(53.4%)
・減量化量	429千トン	(27.0%)
・最終処分量	308千トン	(19.4%)
・その他量	4千トン	(0.3%)
合計（排出量）		1,588千トン（100.0%）

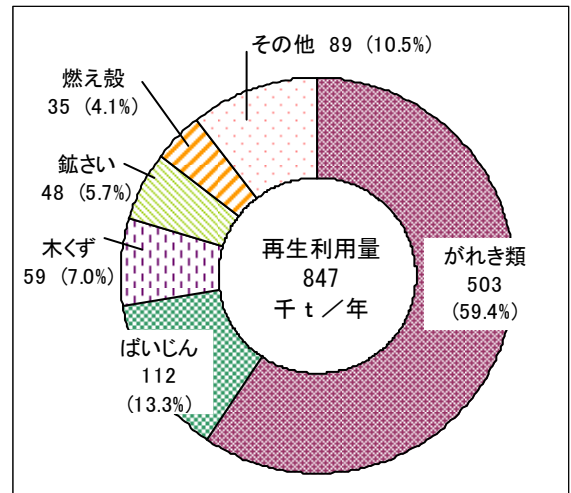


発生・排出及び処理・処分状況の流れ図

①再生利用量

- 上位4種類で再生利用量の85.4%

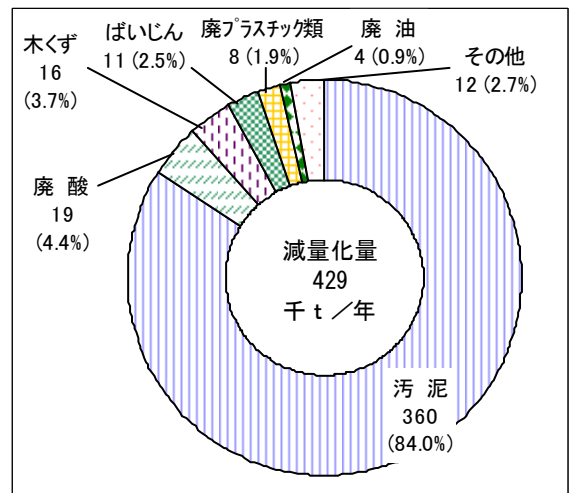
がれき類が503千トン(59.4%)で最も多く、次いで、ばいじんが112千トン(13.3%)、木くずが59千トン(7.0%)、鉱さいが48千トン(5.7%)等となっている。



②減量化量

- 上位3種類で減量化量の92.1%

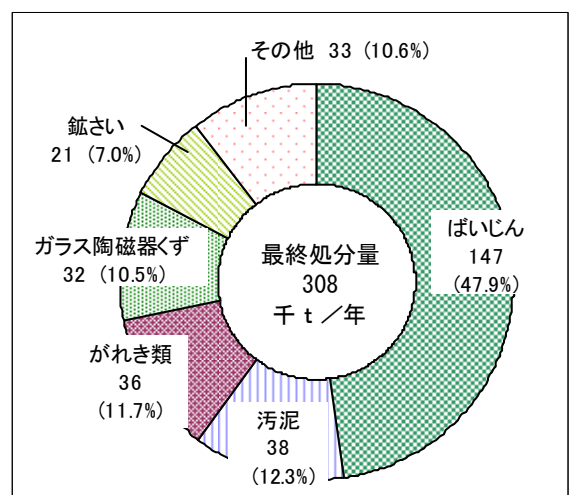
汚泥が360千トン(84.0%)で最も多く、次いで、廃酸が19千トン(4.4%)、木くずが16千トン(3.7%)等となっている。



③最終処分量

- 上位5種類で最終処分量の89.4%

ばいじんが147千トン(47.9%)で最も多く、次いで、汚泥が38千トン(12.3%)、がれき類が36千トン(11.7%)、ガラス・コンクリート・陶磁器くずが32(10.5%)、鉱さいが21千トン(7.0%)等となっている。



(4) 前回調査との比較

前回調査（平成11年度実績）と比較するため、処理・処分状況について概括すると次のとおりである。

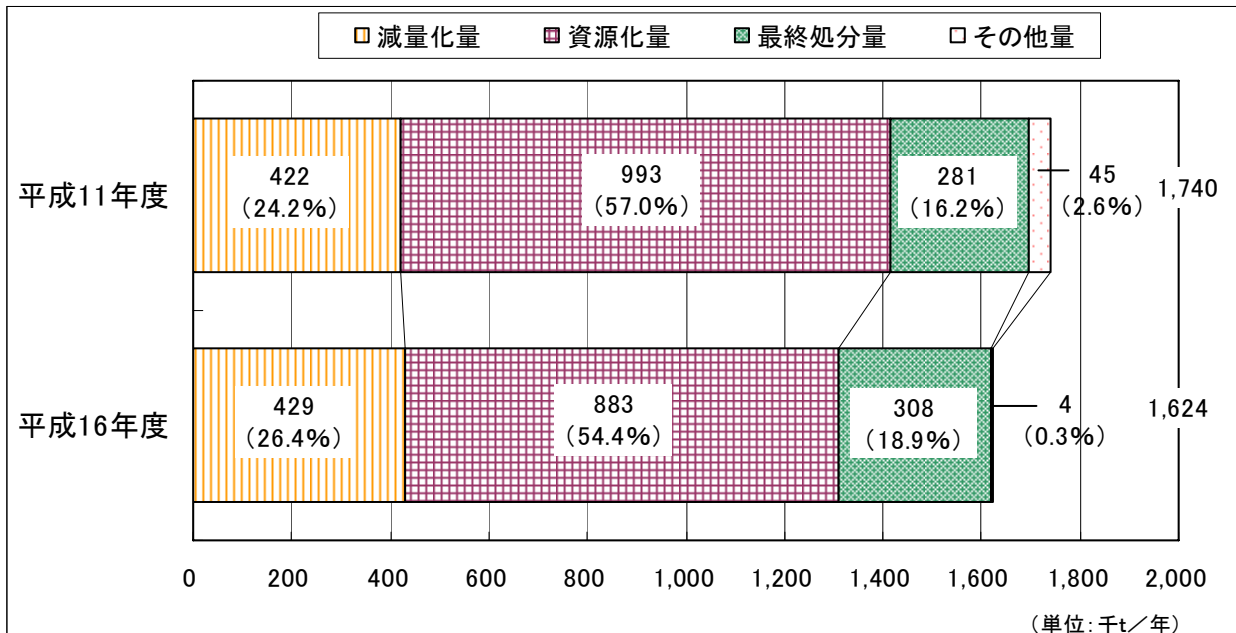
今回の調査では、発生量が減少しており、資源化量が57.0%から54.4%へ2.6ポイントの減少（主に建設業のがれき類等）になっている。中間処理による減量化量では逆に24.2%から26.4%へ2.2ポイントの増加（主に電気・水道業の汚泥）となっている。また、最終処分量は16.2%から18.9%へ2.7ポイントの増加となっている。

処理・処分状況の比較（農業を除く）

(単位:千t/年)

項目	平成11年度	平成16年度	増減量	増減率(%)
発生量	1,740 (100.0%)	1,624 (100.0%)	-116	-6.7
資源化量	993 (57.0%)	883 (54.4%)	-109	-11.0
有償物量	118 (6.8%)	36 (2.2%)	-82	-69.3
再生利用量	874 (50.3%)	847 (52.2%)	-27	-3.1
減量化量	422 (24.2%)	429 (26.4%)	7	1.7
最終処分量	281 (16.2%)	308 (18.9%)	27	9.5
その他量	45 (2.6%)	4 (0.3%)	-40	-90.4

(注)表中の%表示については四捨五入しているため総数と個々の数値の合計が一致しないものがある。



処理・処分状況の比較（農業を除く）

産業廃棄物実態調査結果（要約）

1. 発生状況

（1）発生量

● 2,291 千トン

（2）業種別発生量

● 農業 667 千トン（29.1%）、建設業 660 千トン（28.8%）、電気・水道業 482 千トン（21.1%）、製造業 313 千トン（13.7%）の上位 4 業種で発生量の 92.7%を占める。

（3）種類別発生量

● 動物のふん尿 666 千トン（29.1%）、がれき類 546 千トン（23.8%）、汚泥 424 千トン（18.5%）、ばいじん 273 千トン（11.9%）の上位 4 種類で発生量の 83.3%を占める。

（4）圏域別発生量（農業を除く）

● 松江圏域 466 千トン（28.6%）、出雲圏域 413 千トン（25.4%）、浜田圏域 410 千トン（25.3%）、益田圏域 201 千トン（12.4%）、大田圏域 91 千トン（5.6%）、隠岐圏域 43 千トン（2.7%）の順。

2. 排出状況

（1）排出量

● 2,255 千トン

（2）業種別排出量

● 農業 667 千トン（29.6%）、建設業 648 千トン（28.8%）、電気・水道業 482 千トン（21.4%）、製造業 290 千トン（12.9%）、の上位 4 業種で排出量の 92.7%を占める。

（3）種類別排出量

● 動物のふん尿 666 千トン（29.5%）、がれき類 542 千トン（24.0%）、汚泥 420 千トン（18.6%）、ばいじん 273 千トン（12.1%）の上位 4 種類で排出量の 84.2%を占める。

（4）圏域別排出量（農業を除く）

● 松江圏域 446 千トン（28.1%）、浜田圏域 409 千トン（25.7%）、出雲圏域 403 千トン（25.4%）、益田圏域 200 千トン（12.6%）、大田圏域 91 千トン（5.7%）、隠岐圏域 39 千トン（2.5%）の順。

3. 処理・処分状況（農業を除く）

（1）排出量

● 1,588 千トン

（2）再生利用量

● 847 千トンで排出量の 53.4%

（3）減量化量

● 429 千トンで排出量の 27.0%

（4）最終処分量

● 308 千トンで排出量の 19.4%